講義名	流通情報物流特論					授業形態	
担当教員	李　志明	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

ビジネス全般、とりわけ流通業において物流やロジスティクスの役割がますます重要になっており、現在の優良企業の多くがロジスティクスに最大限の努力を図っている。
本講義では、物流やロジスティクスの基礎と高度な専門知識について多様な視点から議論する。また、ロジスティクスにおける専門用語は英語が多いため、大学院生として最小限に知っておく必要がある内容については英語資料を用いることにする。

到達目標

（1）流通におけるロジスティクスと物流について原則と理論を深く理解する。
（2）ロジスティクスと物流の課題と実務について議論でき、解決策を提示する。
（3）ロジスティクスと物流の変化要因を理解し、研究の問題意識と研究方法を設定できる。

提出課題

レポート１回

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に皆で議論して課題内容を一緒に理解する。

評価の基準

１．授業貢献度（議論参加など）５０％
２．レポート５０％

履修にあたっての注意・助言他

（1）大学院生としての自覚しておく。
（2）授業中の議論に積極的に参加する。
（3）事前に配布する英語資料と日本語資料を予習し、読めて理解できるようしておく。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.なし.				

その他

適宜資料を配布

授業計画

以下のように、１５回の授業（議論）を計画する。ただし、授業内容（議論内容）は、受講者の状況によって、変更する可能性がある。

1　流通情報物流特論の紹介
2　流通における物流とロジスティクスとSCM
3　企業とロジスティクス
4　日常生活と企業活動からみる物流機能
5　物流とロジスティクスにおける理論（適正在庫量、SCM、JITなど）
6　物流とロジスティクスにおける理論の光と影
7　AMAZONからみるロジスティクスの重要性（英語資料）
8　ZARAからみるグローバルロジスティクスマネジメント（英語資料）
8　グローバル・ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント
10　グローバル・ロジスティクスにおける文化の理解
11　LAND ROVERからみる効率的な環境対策（英語資料）
12　グローバル・コールドチェーンシステム（英語資料）
13　リバースロジスティクス
14　次世代のロジスティクス
15　流通における物流とロジスティクスの再考察

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業を通して、ロジスティクスと物流に関する理論と実務を理解する。それによって、研究課題と研究方法を修得し、修士論文の完成に大幅に貢献できる。また、研究能力とともに高度専門職業人としての能力を身につけることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教員による説明の後、大学院生の皆と議論する。議論の際、論理性とコミュニケーション能力を向上させるように努める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
物流データ分析と物流政策立案の支援経験があり、民間企業や政府の考え方などを伝え、より現実感のある授業を提供する。

備考